



月刊 いちえふ。



わん ふおーおーる じゃぼん じむきよく
1 FOR ALL JAPAN 事務局

とぴくす

インフルエンザの予防接種 ただ今、受け付け中!

インフルエンザの発症の予防と感染拡大防止に向けて、予防接種がスタートしました。予防接種が受けられる場所と日時については、各企業の担当の方にご確認ください。

11月の重点基本行動 運行前の車両点検 ヨシッ!

11月9日から15日まで、「秋の全国火災予防運動」が実施されます。車両からの油漏れは火災のおそれがありますので、火災予防の意識を高め、油漏れゼロを目指しましょう。

天神岬温泉の「しおかぜ荘」 が営業再開しました

9月16日から、天神岬スポーツ公園内の天神岬温泉「しおかぜ荘」が営業再開しました。営業時間や利用料については、「しおかぜ荘」にご確認ください。電話：0240-25-5726

いちえふ まち なかま 1Fを守る仲間たち 01

「廃炉をやり遂げよう」とする みなさんの心意気を感じます

あさむら ただふみ
浅村 忠文さん

かじまけんせつかぶしきがいしゃ とうきょうとくぼくしてん
鹿島建設株式会社 東京土木支店
ふくしまだいいちとうどしやすいへきこうじじむしよ しょちよう
福島第一凍土遮水壁工事事務所 所長

廃炉における汚染水処理は、重要で緊急性の高い仕事です。「凍土遮水壁」は汚染水処理の対策のひとつで、2013年度にスタート。「原子炉建屋のまわりに「氷の壁」をつくり、汚染源に地下水を近づけないことで建屋内の汚染水の発生を減らす対策です」と語る、凍土遮水壁の工事責任者、鹿島建設・所長の浅村忠文さんにお話を伺いました。

——工事のあらましと、このあとの予定を教えてください。

浅村さん：現在、1日約300トンの地下水が建屋内に流れ込んでいます。この地下水が原子炉を冷やしたあと、水と混ざり、汚染水を増やしています。そこで、1～4号機の建屋群を囲む地下に凍結管を1メートル間隔で埋めて、その中にマイナス30度の液体の冷却剤を循環さ



1981年入社。14年間原子力室に所属。95年から鉄道建設に携わり、つくばエクスプレス「つくば駅」など、主に関東圏の鉄道現場で所長を務める。震災後は1Fのほかに、岩手県宮古市田老地区の高台移転事業にも参加

せて地盤を凍らせます。総延長1500メートル、深さ30メートル、厚さ2メートルもの巨大な氷の壁が完成すると、地下水の流入を1日100トン未満に減らすことができます。山側（北・西・南側）は今年7月に凍結管の設置を完了、海側（東側）も11月完了の予定です。凍結を始

あさむら つと さき
浅村さんのお勤め先

かじまけんせつつかぶしきがいしゃ
鹿島建設株式会社

とうどしやしゅいへきじぎょう くに ほしよじぎょう
凍土遮水壁事業は、国の補助事業として
2013年度から東京電力と鹿島建設が設置
を進めています。13年5月、汚染水処理
対策委員会で鹿島建設が提案した
凍土方式が陸側遮水壁の工法に決定。
同年8月から実証試験開始。資源エネ
ルギー庁から、13年10月に東京電力と共同
で大規模工事(本事業)を受注、同月、13
年度の予備費を活用する特別措置で
本事業がスタートしました。



とうどしやしゅいへきこうじ
凍土遮水壁工事をいっしょにやり遂げた仲間たち(中央が浅村さん)

められる状態になるのは、16年2月頃の見込みです。

「福島のために一肌脱ごう」という
強い意志を感じます

——毎日、どのようにお仕事をされているのでしょうか。

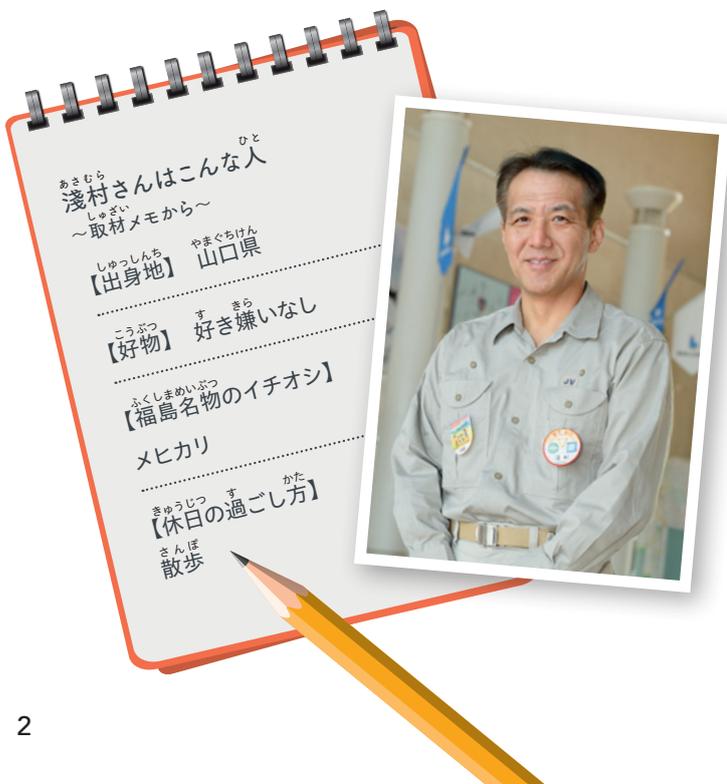
浅村さん：凍土遮水壁の工事現場では1日平均500～600人、多いときで800～900人が働き、14年5月から今年8月末までの延べ人数は24万7700人に上ります。この夏は大変な猛暑でしたが、作業時間の調整や入域前の体調チェック、現場内休憩所「クールハウス」な

ど熱中症予防策を講じたおかげで、作業をやり遂げることができました。ここには20代の若者から、退職前にもう一働きしようという年配者まで、さまざまな人たちが集まっています。彼らに共通しているのは、こころざしの高さです。それまでと違う作業環境に、まったく不安がないわけではないと思います。それでも、「自分が何とかしてやるんだ」と思っている方が多いのです。福島の復興や日本の安全のために「一肌脱ごう」という強い気持ちを感ずますね。

——ご苦労も多々おありでしょうね。

浅村さん：今年度中の凍結開始に向けてとても難しかったのが、短期間で、資材や機械を集めたり人繰りを調整したりすることでした。たとえば、全国から集まる作業員さんの宿舎を確保するため、広野町に宿泊施設(300人収容)を新設しました。ところが、働く人が予想を超えたため、いわき市内のホテルを丸ごと借りたり、鹿島建設のほかの宿舎の空きを利用したりしました。一時600人以上の宿舎を用意するのに、いわき湯本の温泉宿や勿来のゴルフ場のロッジ、北茨城まで探しました。あと、作業員さんの暮らしを支えるのに、食事の充実も欠かせません。宿舎の食堂では、ボリュームはもちろん、「肉の日」や「魚の日」を設けて食事が楽しみになるよう、いろいろな工夫をしています。

——被ばくを心配される作業員さんもいるのでは？



あさむら たし ほうしゃせん こかい すく
 浅村さん：確かに、放射線については誤解も少なくない
 ようです。家族にずいぶん心配されて、「本当のところ
 はどうなんですか？」と聞いてくる作業員さんもいます。
 ただ、自分で数値を確認し、日々の被ばく線量管理を
 たいけん じぶん すうち かくにん ひび ひ せんりょうかんり
 体験すると、しっかり管理していることがわかり、安心
 してくれるようです。鹿島建設は国の基準に基づき、被
 ばくせんりょう げんみつ かんり とうどしやしういへき いちえふ
 ばく線量を厳密に管理しています。凍土遮水壁は1F
 こうない こうじ ちが せんりょう たか ぼしよ さ こうじ
 構内のほかの工事と違い、線量の高い場所を避けて工事
 をすることが難しい線状の構造物です。そのため、工事
 まえ じよせん かくまけんせつ くに きじゆん もと ひ
 前に除染をしたり、コンクリートの壁を造ったり、砂利
 や鉄板を敷くなど、放射線量を下げる処置を念入りに
 行っていきます。そして、作業員さんはほぼ全員、被ばく
 せんりょう やく わりへ せんにん ひ
 線量を約2～3割減らすことのできるタングステンベ
 ストを着ています。

まいしゅうげんき かお み
毎週元気な顔を見せることで
 かぞく あんしん
家族も安心

—— あさむら じしん ふあん
 浅村さんご自身は不安ではありませんか？

あさむら わたし ほうしゃせん かんりくいき しこと
 浅村さん：私も放射線管理区域で仕事をするのは、

しんさいご ばじ じしん ぼっせい しゅうかんご きんきゅうこうじ
 震災後が初めてです。地震発生から2週間後、緊急工事
 はい こうない こうせい ほうしゃせんりょう たか きんちよう
 で入ったときは構内の放射線量はまだ高く、とても緊張
 しました。その後は徐々に落ち着いてきましたし、被ばく
 せんりょうかんり てつてい いま ふあん かん
 線量管理は徹底されているので、今はとりわけ不安を感
 じることはありませんね。家族はさすがに、震災直後は
 しんばい いま あんぜんたいさく
 心配そうでしたが、今では「しっかり安全対策がなされて
 いるのであれば大丈夫」と思ってくれているようです。

—— お休みの日はどうやって息抜きを？

あさむら ねん がつ たんしんふにん にちよう
 浅村さん：13年10月から単身赴任していますが、日曜
 はなるべく東京の自宅に帰っています。楽しみは、愛犬
 の散歩です。平日はゆっくりする余裕はあまりありませ
 んが、福島でも散歩がよい息抜きになっています。ちな
 みに、作業員さんたちは福島県内を観光したり、ゴルフ
 のほか、山登り、釣りやスキー
 などを楽しんでいるようですよ。
 素晴らしい現場で高い志を持ち続
 けられるのも、仕事と休みの切
 り替えがうまくいっているから
 なのではないでしょうか。



いちえふのいま

あたら しょくどう じかんたいせい
新しくなった食堂や24時間体制の
 いりょうしつ きがる りよう
医療室を気軽に利用してください

いちえふ しせつ ちやくちやく
 1Fではさまざまな施設で着々
 と整備が進んでいます。7月には
 きゅうけいじよ かんび かいしゅうちゅう
 休憩所が完備されました。改修中
 だった食堂は8月に再開しまし
 た。また、救急医療室(ER)で
 は、みなさまの健康を守るために、
 24時間365日医師が待機してい
 ます。「ちょっとお腹が痛い」と
 いうのでかまいません。少しで
 もからだ ぶちょう かん 感じたらがまんせ
 ず、気軽に訪ねていただきたいと

おも 思います。
 ながく とりく んでいる おせんすい
 対策のうち、9月には「サブドレ
 ン」と「海側遮水壁」が完成しま
 した。サブドレンとは、地下水を
 くみ上げる 井戸のことです。1～
 4号機の建屋のまわりにあり、山
 から流れてくる地下水をくみ上げ
 ることで、建屋に流れ込む地下水
 の量を減らします。くみ上げた
 地下水は、専用設備できれいにし

すいしつ かくにん はいすい
 て水質を確認したうえで排水して
 います。海側遮水壁は、建屋と海
 の間に設けた金属製の壁のこ
 とで、汚染された地下水が海に流れ
 出ることを防ぎます。

さらに、建屋を囲む部分の土
 を凍らせることで地下水の流れ
 込みを減らす「凍土方式の陸側
 遮水壁」は難しい工事でしたが、
 やまがわぶぶん がつ かんせい
 山側部分が9月に完成しました。
 ほうしゃせいぶつしつ のうど がいよう
 放射性物質の濃度は外洋はもち
 ろん、湾内のほとんどの場所で、
 機械で測れないほど薄くなりま
 した。

いこいの時間

〈まちがい探し〉

毎号、ちょっと息抜きができるお楽しみを掲載していきます。今月はまちがい探しです。紅葉狩りに出かけた家族の絵が上下に2つ。とてもよく似た絵ですが、まちがいがいくつか隠れています。みなさん、おわかりになりますか？



回答の仕方・プレゼントのお受け取り方法

まちがいの数はいくつでしょう。次の(a)~(c)の中から選んでください。

- (a) 5個
- (b) 7個
- (c) 9個

正解した方には、プレゼントをさしあげます。

「ヴィレッジ受付に本誌をお持ちになり、ご回答ください

11月16日 14時~17時

※ご本人に直接手渡しいたします
先着50名となりますので
終了した場合はご了承ください

今号のプレゼント

「うつくしまゼリー」や「白桃ダックワーズ」「小名浜かつおせんべい」など、福島名産のお菓子の詰め合わせです。

協力：日本マーケティング協会様



※賞品は写真と異なる場合がございます

ウェブサイトのご紹介

福島第一原子力発電所の廃炉作業を進める作業員みなさまに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えたいという思いで2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く作業員みなさまを応援していきます。



<http://1f-all.jp/>

げっかん 月刊 いちえふ。 創刊号

【発行日】2015年11月10日

【発行】
1 FOR ALL JAPAN 事務局
とうきょうでんりょくえすしーしつ
(東京電力S-C室)

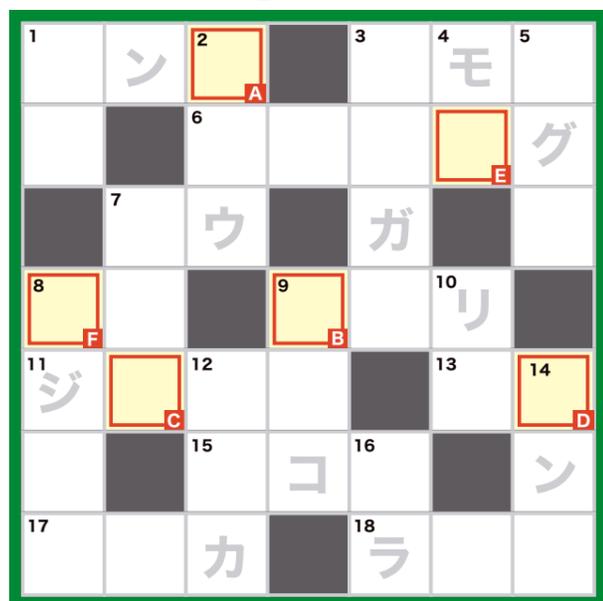
【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp

いこいの時間



〈クロスワード〉

毎号、ちょっと息抜きができるお楽しみを掲載していきます。今月はクロスワードです。タテとヨコのキーをヒントの手がかりにして、A~Fの印がついた箇所の文字を並べると、答えの言葉になります。みなさん、お分かりになりますか？



A	B	C	D	E	F

回答の仕方・プレゼントのお受け取り方法

クロスワードの答えが分かった方には、プレゼントをさしあげます。

「ヴィレッジ受付に本誌をお持ちになり、ご回答ください

12月18日 14時~17時

※ご本人に直接手渡しいたします
先着30名となりますので
終了した場合はご了承ください



クロスワードヒント

<ヨコのキー>

- 1 福島のフルーツ「ふじ」「紅玉」といえば何？
- 3 魚を天日干しにしたもの
- 6 拳闘
- 7 英語でキング
- 8 ○○仕事、箱○○、○○木
- 9 反対語は「はずれ」
- 11 楽あれば苦ありと言われるもの
- 13 冬は北から吹きます
- 15 東日本はスイカ、西日本は？
- 17 学校のココは走ってはいけません
- 18 飛行機を発明した「○○○兄弟」

<タテのキー>

- 1 お金を貸しても、借りても付くもの
- 2 黒くて細長い根菜
- 3 ひな祭りの菱餅(ひしもち)の形
- 4 家○○、指○○、○○限
- 5 福島県出身の細菌学者で千円札の人物は「○○○英世」
- 7 一寸法師は、何の舟に乗った？
- 8 レインボーカラー、日本語で言うとき
- 9 ジャンケンで同じものが出た
- 10 実験がある授業
- 12 オリンピックで掲げる炎
- 14 ○○多難、○○洋々、○○有望
- 16 卵の外側

今号のプレゼント

「喜多方ラーメンせんべい」や「酪王カフェオレサブレ」、「福島ゼリー」など、福島名産のお菓子の詰め合わせです。

協力:日本マーケティング協会様



※賞品は写真と異なる場合がございます

ウェブサイトのご紹介

福島第一原子力発電所の廃炉作業を進める作業員のみなさまに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えたいという思いで2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く作業員のみなさまを応援していきます。



http://1f-all.jp/

月刊いちえふ。
2015年12月号

【発行日】2015年12月10日
【発行】
1 FOR ALL JAPAN 事務局
(東京電力SC室)
【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp

福島第一原子力発電所で働くみなさんへのお知らせ

月刊 いちえふ。

2015年
12月号

1 FOR ALL JAPAN 事務局



とびっくす

インフルエンザの予防接種 実施中

先月に引き続き、インフルエンザの発症の予防と感染拡大防止に向けて、予防接種を実施中です。予防接種の場所と日時については、各企業の担当の方にご確認を。

飲酒運転防止の徹底！ お酒を飲む機会が増える時期です

車の運転をする可能性があるときは、「絶対に飲酒をしない」「勧められても断る」強い意志を持ちましょう。また、運転手の方にはお酒を勧めないでください。

「いわき光のさくらまつり」 11月28日から来年1月11日まで

「ここに集う、満開の笑顔一咲き続ける希望のさくら」をテーマに、いわき駅前のケヤキ並木が「希望」のさくらで満開になります。ぜひ、おいでください。点灯は17時~23時。

1Fを守る仲間たち 02

高い水準の知識と技術を 次の世代に伝えていきたい

大浦 仁さん

株式会社東京エネシス 原子力本部
福島総合支社 機械工事部 副長

廃炉に向けて、難しい問題として立ち上がる汚染水処理。安全で安心な処理を進めるため、現在の事故の直後から汚染水をためてきた既存するタンクを、より安全性の高い新しいタンクに交換しているところです。「大切なのは配管を取り外すとき。少しの汚染水も漏れることのないよう最大の注意を払っています」と語る、東京エネシス副長の大浦仁さんにお話を伺いました。

— どのような作業をしているのですか。

大浦さん：現在は、汚染水タンクのリプレースと解体工事にもともなう配管の撤去、タンクに残っている汚染水の移送、タンクの洗浄などです。そのなかで、管理者の立場で仕事をしています。なかでも重要なのは、フランジ（継ぎ目）のあるタンクから、配管を安全に取り外す仕事です。

汚染水が外に流れ出ないように、配管の養生には特別な方法を取り、作業の手順にも間違いがないように、現場で働く人たちは念入りにコミュニケーションをとっています。

作業員さんの体調管理が なによりも大切

— とくに、どういう点に注意をなされていますか。

大浦さん：私の班は朝5時半に1Fに集合するので、平日は毎晩9時に寝て、午前2時半から3時ごろに起きるという毎日です。ですから、朝に合わせて体調管理をすること

1991年に入社。すぐに1Fに配属され、定期検査や工事に携わる。その間、東京本社に1年間勤務、柏崎刈羽原子力発電所や東海発電所に応援で行ったことはあるものの、それ以外はずっと1Fで仕事をしてきた。





大浦さんのお勤め先

株式会社東京エネシス

1947年に株式会社東京電気工務所として創業。2001年に株式会社東京エネシスに改称。発電所、変電所、工場などの建設・保守管理をはじめ、土木、管路、建築工事の設計・施工、保守点検などに取り組んでおり、福島第一原子力発電所の廃炉作業においては、汚染水処理系や循環冷却系などの設備保守点検工事を行っている。

がとても大切で、毎朝のミーティングでも、作業員さんの体調管理には気をつけています。みなさんの顔色や表情を見て、体調を判断するのも私の重要な仕事です。体調が悪いのに無理をすれば、事故や災害につながってしまいます。

——作業員さんとの打ち合わせで大切なことは。

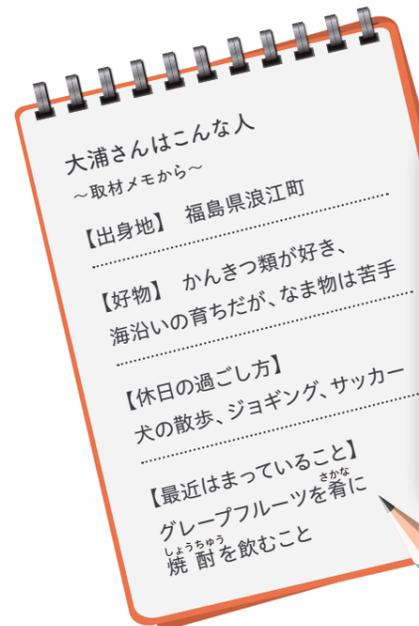
大浦さん：1つひとつの工事仕様を説明するときには、なぜそれをするのかという理由をきちんと伝えるようにしています。つまり、「この機材を、ここからあそこに動かしてほしい」という言い方ではなく、「〇〇という目的があるので、この機材をここからあそこに動かしてほしい」という言い方で仕様を説明するのです。作業員さんたちは、目的や理由がわからなければただ動かすだけで終わってしまいます。ときには、「なぜ?」「面倒だな」という気持ちも生まれるでしょう。そうすると、ケガやミスにつながる恐れがあります。でも、「ここには別の機材を置くから」と言われれば、

あいた場所をきれいに掃除しようという気持ちになりますし、「移動する機材は重要なものです」といえば機材を大切に扱おうという気になります。そうしたことを通じて、仕事に対する意欲やプライドをみなさんに持っていただきたいのです。

みんなの気持ちが1つになれば不可能が可能になる

——震災前からずっと1Fで仕事を続けてきたんですね。

大浦さん：廃炉工事にあたっては、震災前を知っている人がいるべきだと思うのです。ところが、震災前からいた人の何人かは、事故直後の大変な時期に仕事をなさったことで、被曝放射線量が上限値を越えてしまったために、1Fで仕事が続けられなくなってしまいました。私も多少の線量を残しているのですが、ここにいることができます。そして、できる限りのことを後輩たちに伝えたいと考えています。高い水準の知識と技術を次の世代に伝えることは、昔を知る私たちの務めだと思うのです。



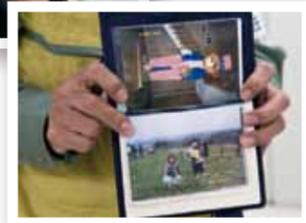
大浦さんはこんな人
～取材メモから～
【出身地】 福島県浪江町
【好物】 かんきつ類が好き、海沿いの育ちだが、なま物は苦手
【休日の過ごし方】 犬の散歩、ジョギング、サッカー
【最近ハマっていること】 グレープフルーツを着用し、焼酎を飲むこと



震災前までは地元、浪江町の少年サッカーチームの監督をしており、今も休みの日にはサッカーで汗を流す



成人しているお嬢さんの幼かった頃の写真をいつも持っているそう



おしらせ

1Fの労働環境にかかわるアンケート(第6回)の結果が公表されました

労働環境改善に向けたアンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

今後も「安心して働きやすい職場」づくりに取り組んでまいります。引き続き、1Fの安定化・廃炉に向けたご協力を、よろしくお願いいたします。

くわしいアンケート結果は1 FOR ALL JAPANウェブサイトの新着情報をご覧ください。

【アンケート実施方法】

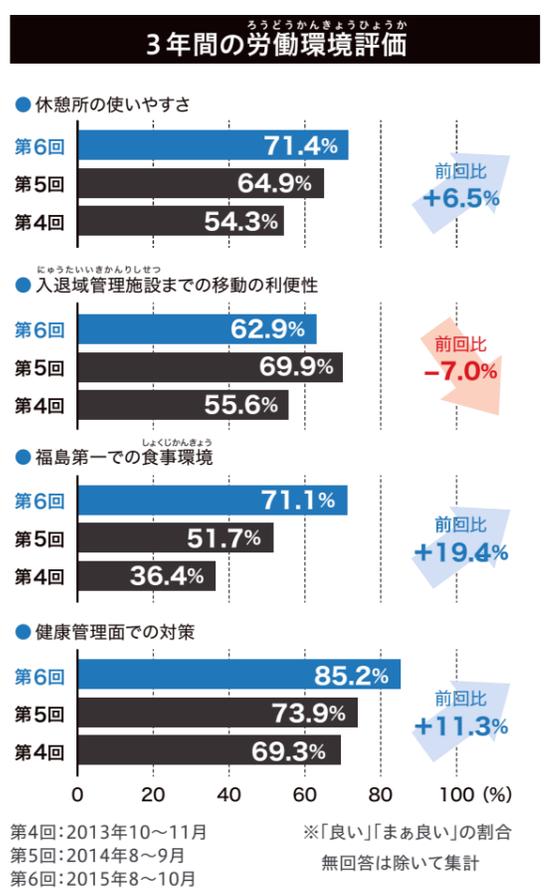
(東京電力福島第一廃炉推進カンパニー)

対象：1Fの作業に従事するすべての作業員の方(東電社員を除く)

方法：無記名式

期間：2015年8月27日～10月7日

回答者数：6527人(7558部配布、回収率86.4%)



いちえふのいま

大型休憩所にシャワーを設置する工事がはじまります

1Fでは、作業を終えたみなさまが疲れをいやしていただけるよう、来年4月、大型休憩所3階に、個室を30室備えたシャワー室ができあがる予定です。それととも、工事のはじまる12月から、現在の3階にある食堂が2階に移ります。そのため、仕事からもどったのち、階段を上がらずに食堂に行けるようになります。

また、1Fにおける仕事に対して、厚生労働省が安全管理のため

の新しいガイドラインを定めました。これを受け、引き続きみなさまが安全に、かつ安心して働いていただけるよう努めてまいります。放射性物質により汚染した地下水が海に流れるのを防ぐ「海側遮水壁」については、10月26日に作業が終わり、壁を完全に閉じることができました。

一方、汚染水をためるタンクのうち、H1東エリアにあった旧型のフランジタンクは、10月28日



に12基すべての解体が終わりました。引き続き、別の場所でも、安全性の高い新しいタンクに交換してまいります。

1号機の原子炉建屋では、10月5日に建屋カバーの屋根パネルを取り外す作業が終わりました。3号機では、10月15日に燃料ラック上の大型がれきの撤去が完了しました。